

’98 ジムカーナグランプリ 第3戦・香川 GP 開催レポート

今年で4回目を迎えるジムカーナ GP 香川大会がゴールデンウィーク真只中の5月3日(文化の日)に HSR プラザ坂出にて開催された。沖縄 GP、愛知 GP に続いて、第3戦として行われたこの大会には四国四県はもとより、近畿の各地や中には佐賀県や埼玉県からの参加者もあり、58名の参加者は実力別に6クラスに分かれて2回のタイムアタックに挑戦した。

慣熟歩行の後、A,Bクラスの選手だけ試走を行ったが、これは大会の雰囲気慣れてもらうのと安全にコースインしてもらう為だ。いよいよ第1ヒートが始まった。Aクラス、GP初参加の選手だが、予想通り、地元の大会で鳴らしているプロス P-1 に乗る2人の優勝争いになってしまった。Bクラス、参加者が2人で優勝、準優勝だ。CB-1 に乗る M 嬢、前日にパンク修理したタイヤは大丈夫でしょうか? Cクラス、ステップよりシリンダーを先に擦る BMW がパイロンを蹴散らしながら走る。香川 GP 初めての外車だ。ゼファー 750 で参加の B 選手、白バイ系の走りに周りは驚くが、同じ九州の参加者からは「ドロボー」コールが起きる。地元ではブイブイ言わせているのであろう。D-1 クラス、ミニバイカースの KSR-II の2人、小回りを利かせて走るが2人ともミスコースだった。フリーターンではあんなに小さく回っていたのに…。1台のバイクで埼玉県から参加の N 夫妻、夫は普段とは違うバイクでの走行であったが何とか妻より速く走った。D-2 クラス、骨折から回復したばかりの S 氏、スタートしてすぐにフツ飛んでしまった。また病院送りかと心配されたがすぐに起こして再スタート、残りのコースもアグレッシブに攻める。懲りないヤツ! 徳島の K 君と愛媛の I 君が D-2 クラスの中で別格のタイムを記録する。その徳島の K 君のタイムで第1ヒートは大騒ぎになるのである。最速 E クラスの出走が始まって、D-2 の K 君の出した1分20秒を抜くどころか22秒も切れない。そして第1ヒート最後の K 選手になってしまった。いつもの通り正確で最速のラインを描いて行くが一番奥のセクションでミスコースしそうになった。そのロスで22秒台だった。大騒ぎとはこれである。第1ヒートではあるが E クラス K 選手がトップを取れなかった事と暫定のベストラップを出したのが D-2 の選手だった事である。

計測がスムーズに進んで12時前よりお昼休みになった。食事の後、第2ヒート開始までは慣熟歩行 OK なのだが、E クラスの K 選手は誰よりも早くコースに出て歩いている。午前中にミスコースでタイムの残って無い選手は第2ヒートでタイムを残して欲しいものだ。

第2ヒート、スタート。A,B,Cクラスと計測が進む。19歳の W 嬢、今、ノリノリである。やはり師匠が手取り足取り教えてくれるので実力を付けて来ている。D-1 クラス、KSR-II の2人はいつもは何かしらやってくれるのだが、第1ヒートでタイムが出ていないのでマジメに走っている。でも最後はジャックナイフで決めてくれました。D-2 クラス、第1ヒートでベストタイムを記録している徳島の K 君、3秒詰めれば優勝も夢ではなかったがタイムアップ出来なかった。E クラス、いつものマシンと違う NSR で走行の京都の H 選手、ついにトップタイムを少しだが更新する。そして最後の選手のスタート、黄色プロスの神戸の K 選手だ。20秒を切れば勿論、優勝だが彼はここのコースで去年転倒して骨折しているのだ。だが、そんな心配も外科の回数券を持つ(ウソ)彼には必要無いだろう。アクセルでタイミングを取りながら呼吸を整えてスタート、速度が乗り切らずにラインが決まらないスタート直後のセクションも無難にまとめて、8の字を出た後の1番スピードの出る直線を過ぎて、第1ヒートでタイムロスしたセクションも無事通過して回転、フリーターンの後ゴール、タイムが目される。1分18秒474、唯一、20秒を切って優勝である。

表彰式では、今年から増えたジムカーナ GP サポートの会社から頂いた賞品が入賞者や各賞の該当者に贈られた。最後に、実力アップした人を表彰するおなじみ、妖怪の「ジムカーナ漫談」で締め括った。

ジムカーナ GP 香川大会は来年も開催予定ですのでよろしくお願ひします。そして、この後もジムカーナ GP は7月の広島 GP、8月の長野 GP と続きます。どうぞご期待下さい。